

カンボジアにおける文化遺産啓蒙教育プログラムと人材養成活動

研究代表者 石澤良昭（アジア人材養成研究センター 所長）

共同研究者 阿部千依（アジア人材養成研究センター）

1. 研究の目的・背景

なぜ、今文化遺産教育が必要なのか？

本研究プログラムは、「カンボジア人専門家による文化遺産教育」を目指す、長期的、継続的に遺跡を保護する人材を広く育てる試みである。文化遺産教育活動は、アジア人材養成研究センターの人材養成活動の総括と位置付けられる。

「カンボジア人によるカンボジアのためのカンボジアの遺跡保存修復」

カンボジア、アンコール遺跡群は内戦で荒廃した遺跡を保護するため、国際協力による遺跡の保存修復事業が着々と実施された。建築学、考古学など各分野の調査・研究も進み、内戦で失われたカンボジア人専門家・実務家も着実に育成されてきた。

一方で、文化遺産の継続的な維持・保存活動には地域住民の理解と協力が必要不可欠であるにもかかわらず、地域住民に対する文化遺産教育や文化遺産に対する啓蒙活動はなおざりにされてきた。このような教育プログラムがカンボジア政府やユネスコ等の国際機関、各国の遺跡修復チームからも提案されることはなかった。

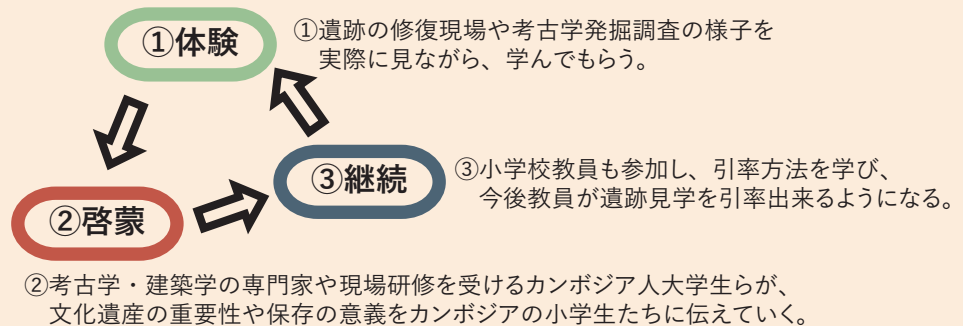
2. 研究の方法・内容

アジア文化遺産啓蒙教育プログラム

アジア人材養成研究センターでは 1990 年代から、考古学発掘調査の際には、地域住民に対して現場説明会を適宜開催し、周辺住民との情報共有につとめてきた。

「アジア文化遺産啓蒙教育プログラム」では、シェムリアップ州教育局とアンコール遺跡整備保全機構と連携し、アンコール地域の小学生を対象とした遺跡見学会を実施した。

「アジア文化遺産啓蒙教育プログラム」のフレームワーク



1990 年代
遺跡発掘現場
近隣住民への説明会

現在
アンコール地域
小学生、小学校教員への
アジア文化遺産啓蒙教育プログラム



カンボジアの未来を背負う子供たち

日本での取り組み「積み木でアンコール・ワットをつくろう」ワークショップ

国際文化の理解へのきっかけとして、3万個の「エコ積み木」を使って実際の 1/100 の大きさとアンコール・ワット再現するワークショップを行っています。

積み木を通して、東南アジアに栄えたアンコール王朝の歴史や文化、そして当時に使われた建築技法も学びます。



アンコール・ワットを積み木で再現している様子

これまでの活動実績

1. 「オールソフィアの集い」（2010 年 5 月、東京都）
上智大学のホームカミングデー、キッズコーナーとして
2. 上智福岡中学高等学校「文化祭」（2010 年 9 月、福岡県）
3. 逗子市立沼間中学校「地球ふれあいデー」（2011 年 6 月、神奈川県）
4. 杉並区高井戸中学校（2011 年 10 月、東京都）
5. 東京駅「積み木でつくる東京駅」（2012 年 3 月、東京都）
6. 「オールソフィアーズフェスティバル 2012」（2012 年 5 月、東京都）
7. 新潟清心女子中学高等学校（2012 年 10 月、新潟県）
8. 「上智大学 100 周年祭」（2013 年 5 月、東京都）
9. イオンモール福岡「カンボジアフェスタ」（2013 年 7 月、福岡県）
10. 地球環境パートナーシッププラザ（2013 年 8 月、東京都）
「自然・文化がある幸せを次世代へ：森林と水と文化・まなびのエコステーション」

3. 実施内容

プログラムの内容

① バンテアイ・クデイ寺院の発掘現場とシハヌーク・イオン博物館見学と体験学習

② 見て学ぼうアンコール・ワットの歴史

【対象】 アンコール地域の小学 5・6 年次生

ゾーン 1・2 の 5 地区 Angkor Thom, Banteay Srei, Puok, Prasat Bakong, Siemreap の 49 校、
在籍生徒総数 19,395 名。
（データはカンボジア教育省シェムリアップ教育局 2009 年）

【教材】 カンボジア語によるジュニアガイドの作成や教員向けの解説図書の作成

【拠点】 文化遺産教育の拠点として「アンコール文化遺産教育センター」の開設
外務省：草の根文化無償資金協力「バンテアイ・クデイ遺跡観光・教育振興施設整備計画」（2011 年）



ジュニアガイドを片手に遺跡を回る小学生



アンコール文化遺産教育センター（バンテアイ・クデイ内）

初等教育における文化遺産啓蒙教育の有効性

・実際の遺跡を学びの場として訪れる機会がないため、知識の定着や遺跡の近くで育まれてきたローカルな文化と遺跡との関連性が乏しい。

・初等教育から中等・高等教育への進学率は低い。

⇒貴重な教育の機会である初等教育の段階で文化遺産保護の重要性について学ぶことが、結果的に継続的な遺跡保存のためには必要不可欠である。

4. 研究の成果

カンボジア人専門家による文化遺産教育を目指して

① カンボジア人専門家と大学生による遺跡現場や歴史の解説。遺跡見学会のカリキュラム化。

② プログラムの充実と関係各所への活動を広く周知。カンボジア政府教育省の関係者の招聘。

③ 引率教員の養成に努め、カンボジア人自身による文化遺産の教育啓蒙活動が行えるような体制づくり。

3年間のプログラム参加実績

対象小学校	17 校
カンボジア人生徒	1,391 名
カンボジア人引率教員	101 名
日本人学生・教職員	71 名

（内訳）

2010 年度：	対象校 1 校 生徒 412 名、教員 34 名
2011 年度：	対象校 11 校 生徒 596 名、教員 31 名
2012 年度：	対象校 5 校 生徒 383 名、引率教諭 36 名 日本人学生・教員 71 名参加



発掘現場の説明を受けている様子

5. 今後の課題

継続したプログラム実施にむけて

★ カンボジアの初等教育カリキュラムに取り入れるようにカンボジア政府（シェムリアップ州教育局、アンコール遺跡整備保全機構など）と連携を強化する。

★ カンボジア人教員を対象とした引率研修や専門家による歴史講義等の機会を充実させる。

上智大学アジア人材養成研究センター
<http://angkorvat.jp>